

MRテキスト2018

疾病と治療

臨床

正誤表

(2018年6月)

頁	該当箇所	誤	正
62	左の上から4行目	高齢発症は少ない。	高齢発症は少ないが、まれではない。
66	右の上から1行目	<p>7. 抗IgE抗体薬</p> <p>IgEに対するヒト化モノクローナル抗体で、オマリズマブとメポリズマブがある。IgEを介した反応を抑制し、喘息症状の発現を抑制する。メポリズマブは、好酸球が増加しており、頻回の全身性副腎皮質ステロイド薬が必要なときに効果がある。</p>	<p>7. 抗体薬</p> <p>抗体薬には、IgEに対するヒト化モノクローナル抗体のオマリズマブ、IL-5に対するヒト化モノクローナル抗体のメポリズマブおよびIL-5受容体に対するヒト化モノクローナル抗体のベンラリズマブがある。オマリズマブはIgEに特異的に結合し、好塩基球や肥満細胞などの炎症細胞の活性化を抑制する。一方、メポリズマブは好酸球の細胞表面に発現しているIL-5に特異的に結合し、好酸球の増加を抑制する。</p>
121	左の上から16行目	130/80mmHg以下	130/80mmHg未満
211	左の下から13行目	脳下垂体	視床下部
214	右の上から15行目	ネオアジュバント療法はがん病巣を縮小することで手術侵襲を軽減したり、全身転移を食い止めて治療成績を向上させることが目的である。	ネオアジュバント療法は完全切除が困難な腫瘍を縮小させて完全切除を可能としたり、切除範囲を小さくすることで術後の経過が良好になることを期待して行われる。